

全国環境研協議会加盟機関が実施している生物学的調査研究(平成 28 年度)

全国環境研協議会環境生物部会では、生物学的調査研究に関する情報交換を進め、共同研究への発展等に資することを目的として、加盟機関に生物学的調査研究の実施状況についてアンケート調査を実施しています。下表は、平成 28 年度に実施している調査研究課題名および概要をまとめたものです。

実施機関名	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部環境科学研究センター
調査研究課題名 および概要	生態系タイプを考慮したセイヨウオオマルハナバチの影響把握と防除手法の検討 海岸、森林、農地等の様々な生態系において、外来マルハナバチが在来マルハナバチと植物の繁殖へ及ぼす影響を解明するとともに、簡易で効率的なモニタリング手法と駆除手法を開発する。
調査研究課題名 および概要	湿原生態系保全に関する研究(湿原植生定期モニタリング) 湿原保全プランを策定した湿原について、その植生変化を継続的にモニタリングし、変化の要因や保全管理対策を検討する。
調査研究課題名 および概要	野生動物分布等実態調査 ヒグマの保護管理の実施に必要な分布、生態、個体数等を把握するため、全道での広域痕跡調査(ヒグマの痕跡のモニタリング)や捕獲個体分析(捕獲個体の年齢査定、胃内容物、栄養分析)、捕獲統計調査などによる全道のヒグマのモニタリングを実施している。
調査研究課題名 および概要	渡島半島ヒグマ対策推進事業 「渡島半島地域ヒグマ保護管理計画」に基づき、被害の軽減やヒグマの適切な保護管理など総合的なヒグマ対策の推進に資するため、ヒグマ個体群モニタリング調査及び被害防除技術の研究開発等を実施する。
調査研究課題名 および概要	エゾシカ総合対策事業 「エゾシカ保護管理計画」(第4期、平成24年3月策定)に基づき、エゾシカの分布、生態、個体数等の調査研究により適正な保護管理の推進を図るため、個体群調査の一環としてのライトセンサス、航空機調査、捕獲個体分析、捕獲状況調査などを実施する。
調査研究課題名 および概要	希少野生動植物保護対策推進事業 「北海道希少野生動植物の保護に関する条例」に基づき、道内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策の推進に資するため、指定植物の生育状況モニタリング調査を行うとともに、指定外であっても希少性の高い植物について繁殖特性等の詳細な生態調査を実施する。
調査研究課題名 および概要	森林管理と連携したエゾシカの個体数管理手法に関する研究 森林の管理と一体的にエゾシカの個体数管理を推進するため、連携体制のモデルを構築し、対象森林におけるエゾシカの相対密度把握手法及びエゾシカによる天然林被害評価手法を開発し、森林資源データ等を活用した捕獲適地の抽出手法及び効果的な捕獲技術を確立する。

調査研究課題名	釧路湿原にて超高密度化状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術
および概要	<p>釧路湿原はタンチョウ等の保護を目的に鳥獣保護区に指定され捕獲が全く行われないことからエゾシカが超高密で生息する状況となっており、生態系への影響が危惧されている。</p> <p>本研究では、超高密度状態のエゾシカによる生態系への影響を把握するとともに、エゾシカや希少鳥類(タンチョウ等)の詳細な行動把握を行い、希少生物に配慮した管理計画を提案する。</p>
調査研究課題名	ロシア極東部に同所的に生息するツキノワグマとヒグマの種間関係と保全に関する研究
および概要	<p>ロシア沿海地方には、ツキノワグマとヒグマが同所的に生息しており、クマ類の種間関係を明らかにし、その保全を図るため、自動撮影カメラによる生息動態把握、捕獲・GPS機器を装着した個体の行動追跡、食性評価方法の検討及び実施、個体数推定法の検討及び実施、生息環境の評価などを実施する。</p>
調査研究課題名	流域開発により起きた水質環境変化と植生を指標とした湖沼評価手法の検討
および概要	<p>農畜産業の盛んな地域と人為的影響の少ない地域の湖沼について、湖内や流入河川の水質と湖岸の植生との関係を把握し、今後の保全や再生にむけた湖沼環境を湖水の水質と湖岸植生の両面から評価する手法を検討する。</p>
実施機関名	岩手県環境保健研究センター
調査研究課題名	希少植物の種の保存および地域資源としての活用に関する研究
および概要	<p>岩手県において絶滅の危険性が高まっている植物を対象に「種の保存」を進める増殖技術の開発を検討する。特に本県の歴史や、文化・産業に深いかかわりを持つ植物を対象にする。本研究で開発した技術は、国内の絶滅危惧植物の種の保存および本県の環境保全政策に役立てるのはもちろん、地域の産業振興や農業振興などの高度な要求に応えられるように取り組む。 [URL] http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kenkyuu/006934.html</p>
調査研究課題名	イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究
および概要	<p>イヌワシの分布、繁殖状況、生息環境、個体群構造等に関わるデータを収集・解析し、生息数維持に向けた科学的知見を整備する。 [URL] http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/inuwashi/top.htm</p>
調査研究課題名	ヘア・トラップ法によるツキノワグマの生息動向と個体数推定法の開発
および概要	<p>ツキノワグマの生息数動態を把握する。モデル地域でヘア・トラップ調査を実施し、新たなシミュレーションモデルに調査結果を組み入れて生息動向を把握する。 [URL] http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</p>
調査研究課題名	ニホンジカの個体数推定と将来予測に関する基礎的研究
および概要	<p>ニホンジカの生息数推定法を開発するため、各事業のデータを用いてシミュレーションモデルを構築する。</p>
調査研究課題名	ウイルス媒介性節足動物(ヒトスジシマカ)の生息に関する研究
および概要	<p>①ヒトスジシマカの生息状況の把握、②生息条件の解析、を行い、疾病媒介蚊対策に向けた基礎的情報や地球温暖化が及ぼす生態系への影響等について検討する。 [URL] http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/006922.html</p>

実施機関名	宮城県保健環境センター
調査研究課題名	底層溶存酸素量と生物種の関連性の調査
および概要	<p>平成 28 年 3 月 30 日に底層を利用する水生生物の保全・再生のため、湖沼の底層溶存酸素量に係る新たな環境基準が制定され、3つの類型が示された。</p> <p>今後県として水域の特性を踏まえた適切な類型をあてはめることになるため、その基礎データとなる、水生生物の生息状況や、溶存酸素量の現況値等の調査を行うもの。</p>
実施機関名	秋田県健康環境センター
調査研究課題名	廃水処理施設における1,4-ジオキサン分解菌の挙動と活性促進因子の探索
および概要	<p>難分解性の化学物質 1,4-ジオキサンが特異的に処理されている水処理施設において、生物処理槽に複数の 1,4-ジオキサン分解菌を確認している。本研究では、1,4-ジオキサン分解菌の存在割合と処理効率を観察し、処理に有効な菌の種類や濃度について評価を行う。また、菌の単離を試み、様々な条件での分解能試験を行うことで活性促進因子の探索を行う。これらの検討により、恒久的に安定した廃水処理の実現を目指す。</p>
実施機関名	山形県環境科学研究センター
調査研究課題名	自然生態系保全モニタリング調査
および概要	<p>森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、山岳地域や里山において、動植物の生息・生育状況等自然環境の調査を行っている。</p> <p>[URL] http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/</p>
調査研究課題名	ブナ・ナラ豊凶調査
および概要	<p>森林の更新や野生動物の生息動向に大きな影響を与えるブナ・ナラの豊凶調査を行っている。</p> <p>[URL] http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/</p>
調査研究課題名	酸性雨モニタリング(陸水)調査
および概要	<p>環境省の委託により酸性雨の中長期的影響を把握するため今神御池(山形県戸沢村)の水質等の調査を行っており、プランクトン調査も継続的に行っている。</p>
実施機関名	福島県環境創造センター
調査研究課題名	猪苗代湖における水質悪化及び大腸菌群数の環境基準超過
および概要	<p>猪苗代湖における大腸菌群数が環境基準を超過することが見受けられることから、流入する河川水及び湖水面における調査や種の同定を行い、分布状況等を把握する。</p>
調査研究課題名	猪苗代湖の水環境に関する研究
および概要	<p>猪苗代湖の中性化に伴い、特有の自然浄化機能が低下し、COD上昇及び大腸菌群数の環境基準超過など水質の悪化の傾向があることから、湖水中性メカニズムの解明及び汚濁負荷原因の解明を進めることにより水質汚濁の原因を明らかにし、水質改善へ向けた効果的な方法等について研究する。</p> <p>また、近年、ヒシを含む水生植物の分布域の拡大や湖岸に漂着する枯死による水質悪化への影響が懸念されていることから、猪苗代湖内の水生植物の分布状況や水生植物の分布域が拡大している北岸部の水質について調査研究を行う。</p> <p>[URL] http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf</p>

(続き)福島県環境創造センター

調査研究課題名	野生生物における放射性核種の挙動及び行動予測
および概要	<p>野生動物の生体内における放射性セシウムほか放射性核種の挙動、食物連鎖による野生生物間での移行等の調査を行う。</p> <p>食物連鎖に係る野生動物の食性を含む行動解析、年及び季節毎の野生生物の行動予測・筋肉中放射性核種濃度の変動に関する研究等を行う。</p> <p>[URL] http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf</p>
実施機関名	新潟市衛生環境研究所
調査研究課題名	新潟市河川における水生底生生物実態調査
および概要	<p>ASPT 値について、河川の水質の重要な指標である BOD 等との関連を経年的に見るため、長期の水質状況が把握できる公共用水域の常時監視地点を考慮した地点で調査を実施している。</p> <p>また、ASPT 値の変動が特に大きかった西川下流域の地点についても、採取方法等を工夫し、評価方法を検討しているところである。</p>
実施機関名	栃木県保健環境センター
調査研究課題名	水生生物調査
および概要	<p>県内主要河川について、水生生物の生息状況を調査し、水質環境を生物学的に判定することにより、生物学的観点から水質を継続的に監視する。</p> <p>[URL] http://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyuu/hozen/jyoushikansikekka.html</p>
調査研究課題名	湯ノ湖沈水植物の植生調査
および概要	<p>奥日光水域の水環境保全対策の一環として湯ノ湖に繁茂するコカナダモの刈取りを実施するに当たり、コカナダモのほか、ヒメフラスコモなど絶滅危惧種を含む沈水植物の植生を調査するもの。</p> <p>[URL] http://www.thec.pref.tochigi.lg.jp/thec/result.htm</p>
実施機関名	群馬県衛生環境研究所
調査研究課題名	尾瀬国立公園尾瀬沼コカナダモ試験区の観察
および概要	<p>1982 年頃に目立ち始めた帰化植物のコカナダモについて、生態系保全のため試験区内において駆除し、その後の生育状況を経過観察し、その結果を年報にてとりまとめている。</p> <p>また、コカナダモが近年急激に衰退していることが確認されたので、今年度は詳細な調査を行っている。</p> <p>[URL] ページ下段の年報に研究成果が掲載されている</p> <p>http://www.pref.gunma.jp/07/p07110001.html</p>
実施機関名	埼玉県環境科学国際センター
調査研究課題名	県民参加を主体とした光化学オキシダント(オゾン)によるアサガオ被害調査
および概要	<p>毎年7月に、県民参加により、県内で生じる光化学オキシダントによるアサガオ被害の状況を調べる。具体的には、県民の協力により、県内約100地点程度でアサガオの葉に発現するオゾン被害を調査するとともに、その被害状況を地図化し、ホームページ等で公開する。</p> <p>[URL] http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/asagaotyousa/index.html</p>

実施機関名	千葉県環境研究センター
調査研究課題名 および概要	東京湾の千葉県沿岸域における有害プランクトン調査 東京湾の千葉県側沿岸域において、観察される有害植物プランクトンを対象として、その生息場所と現存量に関するモニタリングを行う。特に、2012年に東京湾で発見された <i>Chattnella marina</i> 等については、単離培養するとともに、リアルタイム PCR で解析する方法を検討する。
調査研究課題名 および概要	WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ 国立環境研究所のⅡ型研究に参加。 ニセネコゼミジンコを用いて、水生生物環境基準超過地点について生態毒性評価を行う。
実施機関名	神奈川県環境科学センター
調査研究課題名 および概要	水源河川におけるモニタリング調査手法の構築 平均スコア値等の既存評価指標の変動成分の分析や、生物群集と水質項目との関係を解析して経年変化情報の整理・考察を行うとともに、モニタリングで得られたデータを解析することにより、詳細な河川環境の変化を把握するための新たな指標生物を検討する。
実施機関名	山梨県衛生環境研究所
調査研究課題名 および概要	県内のデング熱等感染症の媒介蚊の発生状況調査 蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針に基づく、感染症媒介蚊の発生状況を調査し、蚊媒介感染症の発生に関する人及び蚊についての総合的なリスク評価の検討資料とする。 [URL] http://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/kansensyou/mosquito_monitoring.html
調査研究課題名 および概要	市街地を中心とする蚊類の発生状況調査 病原媒介性が高くかつ市街地に発生源を持つアカイエカ、ヒトスジシマカについて、発生状況を調査して新興感染症対策の基礎資料とする。
調査研究課題名 および概要	県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査 花粉症の原因となるスギ、ヒノキ花粉の飛散状況をダーラム法で観測し、自動測定法の結果と比較検討するとともに、飛散開始時期や飛散量の予測を行う。 [URL] http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/63266933614.html
調査研究課題名 および概要	葉状地衣類の生息環境調査 H26年度に終了した地衣類の分布調査の発展。葉状地衣類の被度が大気中窒素酸化物濃度の指標となるかを検討するため、同じ敷地内のソメイヨシノに着生する葉状地衣類の生息環境調査を行う。また、理科学習への応用を検討する。 [URL] http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/lichenes.html
調査研究課題名 および概要	県内の希少水生昆虫生息調査 県内の希少水生昆虫の生息状況を調査する。併せてこれら希少昆虫が希少感染症の媒介者になる可能性を研究する。
調査研究課題名 および概要	県内水環境の外来底生生物調査 外来底生生物生息地においてモニタリングを行う。また、新規生息地の探索も行う。

(続き)山梨県衛生環境研究所

調査研究課題名	富士五湖における水生植物調査
および概要	富士五湖における水生植物の水平分布調査を実施することで、水生植物種・量の変遷をモニタリングする。
調査研究課題名	山梨県内河川の付着珪藻群集組成からみた水質判定
および概要	付着珪藻は生息する水環境により構成種が異なることが知られている。それを利用して長期間の水環境を推測する手法も提案されている。本研究では県内の湖沼、河川で採取した付着珪藻の観察を行い珪藻アトラスを作成するとともに、各水域の水環境を判定することを目的とする。
実施機関名	長野県環境保全研究所
調査研究課題名	野生鳥獣の保護管理に向けた生態解明及び被害対策の普及啓発
および概要	本研究では、特に問題になっている野生鳥獣の生態調査や保護管理に関わるモニタリング調査を行うことにより、県行政が進める保護管理計画や被害対策に資する基礎資料を提供するとともに、専門的な立場から対策の普及啓発を行うことを目的とする。このため、シカ・クマや魚食性鳥類の生態調査、保護管理計画にともなうモニタリング調査、サル対策に関わる環境教育などを行う。なお、野生鳥獣の保護管理に関わる研究プロジェクトは、平成13年より3年ごとに内容を見直しながら進めており、今後は魚食性鳥類も含めて調査研究を行っていく。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/yase/index.html
調査研究課題名	長野県の生物多様性の総合評価と保全に関する調査研究
および概要	本研究は生物多様性ながの県戦略の目標・行動計画の達成手段をあきらかにし、その達成に貢献することを目的とする。特にレッドリストの改訂、生物多様性ホットスポットの選定、草原生態系の保全と再生に必要な情報を提供し、また戦略の2020年目標達成にむけた科学的中間評価報告を、計5か年で行う計画である。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/tayose/index.html
調査研究課題名	外来生物に関するモニタリングと普及啓発に関する調査研究
および概要	外来生物は、生物多様性への脅威、農林水産業や人身への被害、病原体の媒介など、様々な影響が懸念されている。長野県でもすでに定着し分布拡大している外来生物も多い。そこで、外来生物のモニタリングと対策に関する調査研究を行っている。いきものログを活用して、外来生物の情報を収集・管理・発信する仕組みの構築や、アメリカミンクやアライグマの年齢査定、カラドジョウの生息状況調査、ウチダザリガニの駆除実験、ホソオチョウの捕獲調査、アカボシゴマダラの生息状況調査、オオカワヂシャの生育状況確認などを行った。 [URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html

(続き)長野県環境保全研究所

調査研究課題名	高山生態系における長期モニタリングとその手法に関する調査研究
および概要	<p>南アルプスや八ヶ岳等の高山帯では、ニホンジカの摂食圧増加による植生や生態系への影響が深刻であり、また、気候変動による高山帯の生物群集への影響も危惧されている。本プロジェクトでは、前プロジェクトで構築したモニタリングサイト及び検討・試行した調査手法によるモニタリングを継続するとともに、新規モニタリングサイト(御嶽山)の構築をすすめる。詳細な生物調査や気象観測の実施は、様々な制約から特定の山岳に限定されるため、より広い山域で、高山帯の自然環境を把握するためには、登山者や山小屋関係者などと連携し、多くの人の目で観察することが必要となる。そのため、新たな登山者参加型の環境情報(ライチョウ・ニホンジカ等)収集手法の開発を、県自然保護課と連携して行う。</p> <p>[URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/kozan/index.html</p>
調査研究課題名	野尻湖の水草帯の復元と保全に関する研究
および概要	<p>野尻湖では、喪失した水草帯の復元を目指して約 20 年間にわたる検討と対策がなされ、近年、水草の植生には回復傾向が見られるが、自然状態での水草帯の復元には至っていない。</p> <p>水草帯の復元により、野尻湖本来の沿岸環境を取り戻すことを目的として、沿岸域における水草モニタリング調査を行い、水草の復元状況及び長期変化を把握する。あわせて、水位観測を行い、湖水の水位と水草の生育状況との相関を調査する。</p> <p>[URL] http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/dojo/index.html</p>
実施機関名	静岡県環境衛生科学研究所
調査研究課題名	外来不害虫ヤンバルトサカヤスデの分布・生態特性の解明
および概要	<p>1980 年代に台湾から沖縄に侵入し、近年本州でも確認されている外来種ヤンバルトサカヤスデは、秋の繁殖期に異常発生して集団で壁によじ登ったり家屋に侵入するなどの不快感被害を引き起こし、静岡県内でも問題となっている。これまで、静岡県内における本種の生態特性や環境適応度を把握するとともに、分子生物学的手法を用いて分布拡大パターンを解明してきた。現在、県内の市町、保健所へのアンケート調査を秋の異常発生が起こる時期に実施し、分布拡大状況の把握に努めている。</p>
実施機関名	さいたま市健康科学研究センター
調査研究課題名	アズマモグラの繁殖生理に関する研究
および概要	<p>モグラは地中にトンネルを作る習性により田畑や堤防などに影響を及ぼしうる身近な動物である。しかしこれまでのところ、その繁殖に関してはあまり明らかにされていない部分が多い。そこでモグラの害を防ぐために有益な情報を提供することを目的とし、このモグラの繁殖生理について調査する。</p>
調査研究課題名	生物応答手法を用いた河川水水質調査のパイロットスタディ
および概要	<p>環境省が導入を検討している、生物応答手法を用いた排水検査のうちニセネコゼミジンをを用いた排水試験法の検査を行えるようにする。</p> <p>また、その手法を用いてさいたま市内の河川水の水質調査を行う。</p>

実施機関名	横浜市環境科学研究所
調査研究課題名	陸域生物調査
および概要	大岡川流域にある氷取沢市民の森、久良岐公園、横浜・山下公園において、植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類の調査を行った。生物生息情報のほか、環境変化や地域特性による生物相の違いについて基礎資料が得られた。
調査研究課題名	陸域生物調査(市民協働調査)
および概要	市立小学校 342 校の 5 年生を中心に調査票を配布し、過去 1 年間に学区内で見つけた生き物について回答してもらった。調査対象は、ツバメの巣、リス等の 9 種類である。10,000 人超の回答から、リスの確認率が以前より増加している等の結果が得られた。 [URL] 記者発表資料として以下で紹介 http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/
調査研究課題名	海域生物調査
および概要	本市沿岸の海域 10 地点で魚類、海岸動物、海草・海藻等を調査し、生物生息状況を把握するとともに、生物指標に基づく水質評価を行っている。河川と海域においては、昭和 48 年から 3～4 年ごとに調査を実施しており、28～29 年度に実施する調査は、海域の 14 回目調査となる。 [URL] http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/kaiiki.html
調査研究課題名	「山下公園前海域における水質浄化能力の回復に向けた生物生息環境の改善手法」に関する共同研究
および概要	山下公園前海域に、鉄鋼スラグ製品を用いた「つき磯」を造成することで生物の生息環境を改善し、生物相の回復と水質浄化能力の向上について検証している。定期的なモニタリング調査を実施している。 [URL] http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/sea/umidukuri/
実施機関名	川崎市環境総合研究所
調査研究課題名	生物学的試験による化学物質の生態影響に係る環境リスク評価手法に関する研究
および概要	生物応答を利用した環境リスク評価の手法を確立するため、試験用生物の飼育・繁殖方法を検討するとともに、それらの試験用生物を用いて化学物質の影響について基礎的な曝露実験を行い、知見の集積に努めている。 [URL] 過去の調査結果を年報のページに掲載している http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html
調査研究課題名	河川等の水質及び水生生物の生息・生育状況モニタリング調査
および概要	川崎市水環境保全計画に基づき、市内の河川、海域、親水施設等の水質や水生生物の生息状況を継続的に調査している。 [URL] 過去の調査結果を年報のページに掲載している http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html
調査研究課題名	水環境における生物多様性に関する調査研究
および概要	市内に生息する生物の種類を顕微鏡観察及び DNA 配列の解析により調査し、調査地点における生物多様性の状況を把握している。 [URL] 過去の調査結果を年報のページに掲載している http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html

実施機関名	浜松市保健環境研究所
調査研究課題名 および概要	干潟・浅場や藻場が里海里湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係 平成 27～29 年度「干潟・浅場や藻場が里海里湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係」という国立環境研究所とのⅡ型共同研究へ参画している。 佐鳴湖をフィールドとして、公共用水域の水質測定、プランクトンや水草調査などによって得られたデータを基にして、諸課題についての情報を提供するとともに、他自治体との情報交換をする。
実施機関名	石川県保健環境センター
調査研究課題名 および概要	植物プランクトンを活用した水質浄化の研究 前回(H24～26)の調査研究において、石川県内にある河北潟の水質汚濁は、難分解性有機物よりも春から夏にかけての懸濁態有機物(植物プランクトン)が主因であるとする結果が得られた。 そこで、懸濁態有機物発生の原因となる河北潟へ流入する河川中の窒素・磷等(栄養塩)を河北潟在来の植物プランクトンを活用して除去する浄化装置を試作し、その稼働条件等について検討する。 [URL] http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hokan/gaibuhyouka/documents/26jizen.pdf http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hokan/gaibuhyouka/documents/28cyukan.pdf
実施機関名	愛知県環境調査センター
調査研究課題名 および概要	絶滅危惧種フォローアップ調査 レッドリストあいち 2015 に掲載されている絶滅危惧種及び今後絶滅危惧種となるおそれのある種について、最新の生息生育情報を収集・解析する。
調査研究課題名 および概要	外来種調査 県内に生息する外来種について、最新の生息生育状況の収集・解析を行う。
調査研究課題名 および概要	油ヶ淵における生物多様性モニタリング手法の開発 愛知県の天然湖沼である油ヶ淵において、過去からの動植物生息生育状況のデータベース化を行う。さらに、水生植物の生育調査を行うとともに、水質との関係を解析することで、油ヶ淵における生物のモニタリング手法の開発を行う。
調査研究課題名 および概要	愛知県の希少野生動植物種についての研究 愛知県では、平成8年度から、レッドデータブックの策定・改訂や条例による指定希少野生動植物種の指定等のために、希少野生動植物種について調査を行ってきたが、これらの調査データについて、今後の利用のためにデータベース化を行う。

実施機関名	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
調査研究課題名	琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリング調査
および概要	<p>1.琵琶湖におけるモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン <p>(北湖 4 地点(6 検体),南湖 1 地点で年 24 回)</p> <p>2.瀬田川プランクトン調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン <p>(1 地点で年 52 回、毎週 HP で結果公表)</p> <p>⇒プランクトンのモニタリング結果を理化学的な水質調査結果と併せて解析・評価し、環境審議会等の場で報告する。</p> <p>[URL] プランクトン観測室</p> <p>http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/02shiraberu/02-04plankton/02-04plankton.html</p>
調査研究課題名	沿岸帯の底質環境・生態系機能に及ぼす影響因子の評価
および概要	<p>①沿岸帯の人工化に及ぼす水質やプランクトンに関する研究</p> <p>②沿岸帯底質のシードバンク機能の評価に関する研究</p> <p>③沿岸帯の生産量およびアオコ発生要因の解析に関する研究</p> <p>④沿岸帯における底質とベントスの関係に関する研究沿岸の利用</p> <p>⑤沿岸帯の利用形態と仔稚魚－餌生物間の生物間相互作用との関係</p> <p>[URL] http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/01shiru/01-01kenkyuu/files/seisaku1.pdf</p>
調査研究課題名	北湖深水層と湖底環境の総合的把握
および概要	<p>サブテーマは以下の 3 つがあり②を実施</p> <p>① 水深別水質調査と深湖底における酸素消費の実態把握</p> <p>② 低酸素化に伴う深層生態系への影響把握</p> <p>③ モデル解析等による低酸素化現象の総合評価</p> <p>*②の実施内容は、マンガン酸化粒子であるメタロゲニウムのモニタリング調査の実施</p> <p>[URL] http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/01shiru/01-01kenkyuu/files/cyosa1.pdf</p>
調査研究課題名	化学物質の影響把握と総量リスク評価手法の検討
および概要	<p>サブテーマ: 総量リスク評価のための生態影響試験等の手法確立</p> <p>環境水中に含まれる個別の化学物質の評価では捉えられない化学物質総量としてのリスク評価を行うため、生物を用いた生態影響試験法の確立を目指した検討を行う。</p> <p>[URL] http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/01shiru/01-01kenkyuu/01-01kenkyuu.html</p>

実施機関名	京都府保健環境研究所
調査研究課題名 および概要	<p>アルゼンチンアリの補完的防除に関する検討</p> <p>特定外来生物のアルゼンチンアリ防除を目的とした住民協働の「京都市伏見区アルゼンチンアリ根絶協議会」の地域一斉防除対策に協力し、防除作業の効果の検証と評価、防除計画の見直し作業を実施している。また、本種の根絶を目的とした補完的防除を検討し、市街地での根絶対策の先行事例を示した他、河川敷での防除方法の検討も行っている。</p> <p>[URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou57_99.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou58_99.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-08.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-99.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou60-99.pdf</p>
調査研究課題名 および概要	<p>地域の生物相調査から行う環境影響評価研究</p> <p>1999年から実施しているチョウ類等の生物モニタリング調査を継続実施し、研究所構内のビオトープや地域の生物相の環境変化についての評価手法を検討している。加えて、年ごとに調査対象生物群を設定し、2014年は歩行性甲虫、2015年、2016年は蚊類と土壌生物とし、環境評価と調査手法について検討実施した。</p> <p>[URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou58_10.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-09.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou60-09.pdf</p>
調査研究課題名 および概要	<p>ネオニコチノイド系農薬の脊椎動物に対する安全性について</p> <p>ネオニコチノイド系農薬は有機リン系農薬に代わる低毒性の神経伝達阻害物質であり、水田等において育苗箱施用殺虫剤として広く使用されている。一方で、蜂群崩壊症候群との因果関係や、施用地におけるトンボ類の壊滅的な減少が指摘され、ネオニコチノイド系農薬による水田生態系への影響が危惧されている。ネオニコチノイド系農薬による直接的な毒性影響は、同生態系での高次捕食者として位置づけられる脊椎動物について十分に解明されていない。本研究では、試験対象としてカエル類を選定し、低濃度長期暴露によるネオニコチノイド系農薬の直接的な影響を個体レベルで調査することにより、一般的に節足動物以外に対しては低毒性とされているネオニコチノイド系農薬の安全性について再点検を行う。</p>
調査研究課題名 および概要	<p>生物標本データベースの構築と活用研究</p> <p>標本にしにくい水生生物・アリ・蚊などや保管している生物標本をデジタル化してデータベースを構築し、鑑別依頼・調査研究・専門職員派遣事業等に活用する。アルゼンチンアリの防除事業では大量のサンプルを迅速に同定する必要があり、専門家派遣事業の水生生物調査では現地と同定を行いながら解説する必要がある。そのため、京都市域に生息しているアリと水生生物のデータベースを用いた職員の学習用ソフトをタブレット端末で動作するように作製した。</p>

(続き) 京都府保健環境研究所

<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>京都府内における外来種ミシシippアカミガメを含む淡水ガメの生息実態調査</p> <p>環境省により「緊急対策外来種」に指定されたアカミガメについて、①京都府内における分布状況を把握する、②生態上重要な水域における生息状況や在来種との競合、生態系への影響などを明らかにする、③捕獲防除したアカミガメの処分方法について提案するなど、本府と環境省の在来種保全対策、アカミガメ対策に有用な情報を提供するための野外調査と室内実験を行う。</p> <p>[URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/tayori111.pdf</p>
<p>実施機関名</p>	<p>地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>シカ・イノシシのモニタリング調査</p> <p>農林業被害の軽減・人と野生鳥獣の共存を図るため、大阪府では鳥獣保護管理法に基づくシカ・イノシシの第二種鳥獣管理計画を策定している。この管理計画の策定や進捗状況の点検のためには、地域におけるシカ・イノシシの生息状況や被害状況などの定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府シカ・イノシシ第二種鳥獣管理計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>外来生物対策調査業務</p> <p>本来日本には生息しない外来種であるアライグマは、近年生息域を広げて農業被害が拡大しており、大阪府では外来生物法に基づく防除実施計画を策定して対策を実施している。計画の策定や進捗状況の点検のためには、アライグマの生息状況や被害状況など定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府アライグマ防除実施計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>シカ被害変動要因の解明</p> <p>農地や植林地という人為攪乱環境の存在が、自然林におけるシカの採食行動に与える影響を把握し、シカ1頭あたりの被害強度を変動させる要因を解明する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00056403/H25-nihonjika.pdf</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>イタセンバラ保護定着調査</p> <p>国の天然記念物の淡水魚イタセンバラは、河川改修によるワンドの消失、河川の攪乱の減少、外来魚の増加などにより個体数が著しく減少し、平成 17 年を最後に生息確認が途絶えた。そこで、当研究所では、国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所とともに、本種を当所の保存池で飼育継代するとともに、淀川ワンド群の生物多様性復元の一助とするため、イタセンバラ放流ワンドでの本種を含めた在来魚の生息・繁殖状況を明らかにする。また、外来水生生物の実態を把握し、駆除技術を開発するとともに、本種を含めた在来魚種に感染する恐れのある魚病検査を実施する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/itasen/saidounyu.html</p> <p>http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057783/h26_07itasenpara.pdf</p>

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名	希少魚の保護増殖試験
および概要	<p>都市化に伴う生息環境の悪化等により、府内では魚など多くの水生生物に生息数の著しい減少がみられるようになった。そこで、大阪府における保護上重要な野生生物(レッドデータブック)で絶滅危惧種に指定され、現在絶滅が危惧されているイタセンパラやニッポンバラタナゴなどについて、種の系統保存を図るとともに、その生息状況を把握する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/index.html</p>
調査研究課題名	淡水生物増殖試験
および概要	<p>大阪府における保護上重要な野生生物(レッドデータブック)に記載されている希少水生生物を保護するための調査試験を行う。平成 15 年度から平成 26 年度にかけては水生植物ミズアオイ、平成 27 年度からは淡水二枚貝のイシガイ類の保全に取り組んでいる。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/mizukusa.html</p>
調査研究課題名	安威川ダム魚類捕捉調査業務
および概要	<p>平成 32 年の竣工に向けてダム建設工事が進んでいる安威川において、アジメドジョウをはじめとした魚類、水生動物、付着藻類、植生を調査し、ダム建設を進める上で保全すべき環境要素や留意点を明らかにする。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/ai.html</p>
調査研究課題名	漁業権河川調査
および概要	<p>大阪府内 8 河川に設定されている漁業権免許の更新時には、漁業法第 11 条に基づいた漁業計画の策定が必要となる。漁業計画策定に際しては、漁場の有効性等を検討する必要があることから、河川漁業権漁場の総合的な実態調査を実施する。アユ漁が終わった時期に無機的环境、付着藻類、底生動物、魚類の調査を実施する。</p>
調査研究課題名	生物応答を利用した排水管理手法
および概要	<p>生物応答を利用した排水管理手法である WET について、その方法や国内外の実施状況をまとめ、有効性と導入に向けた問題点を抽出する。</p>
実施機関名	奈良県景観・環境総合センター
調査研究課題名	WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ
および概要	<p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究(Ⅱ型共同研究)に参加し、それぞれの地方の水環境を WET 手法により調査し、生物応答を通して水環境汚染の現状と特徴を把握することを試みる。また、WET 手法に関する技術の共有化や精度確認などのブラッシュアップに向けた知見の集積も目指す。</p> <p>今年度、本県は採水のみ参加し、来年度以降 WET 手法を実施する予定である。</p>
実施機関名	和歌山県環境衛生研究センター
調査研究課題名	第 2 次 底生動物相を用いた河川の水質評価(日高川・古座川・富田川 編)
および概要	<p>約 20 年前に実施した底生動物相を比較することにより、底生動物相及び河川の水質評価の変遷を調査する。</p> <p>得られたデータはホームページやパンフレット等により環境学習に活用していく。</p> <p>[URL] http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031801/mizube/</p>

(続き)和歌山県環境衛生研究センター

調査研究課題名	WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ
および概要	<p>共同研究Ⅱ型「WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ」に参加し、WET 手法に関する情報収集を行う。</p> <p>本県では、ニセネコゼミジンコを用いた排水試験法の検査に取り組み、技術習得を目指す。</p>
実施機関名	名古屋市環境科学調査センター
調査研究課題名	生物応答を用いた排水試験法(WET)における毒性削減方法
および概要	<p>この試験法は、環境中に排出される事業所排水を、魚類・甲殻類・藻類の3種の水生生物を用いて試験を行い、排水が水生生物に影響を及ぼさないかを評価する試験である。従来の排水規制を補完する役割として注目されており、当センターにおいて、3種の生物の飼育試験を行っている。</p> <p>[URL] http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000067013.html</p>
調査研究課題名	市内希少種の保全とこれに関わる外来種の影響についての研究
および概要	<p>名古屋市内に生息する希少種を適切に保全するための基礎的情報として、希少種の生息に必要な環境条件に関する情報および外来種による影響について実態を調査する。</p> <p>[URL] http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000067013.html</p>
実施機関名	大阪市立環境科学研究所
調査研究課題名	風で揺れる葉の意義に関する研究
および概要	<p>樹木の中には風雨により容易に葉が揺れる種とそうでない種がある。本研究では、前者の樹種で風により受動的に葉が動かされることが、植食性昆虫による樹木の食害を減少させる効果があるかを検討している。緑化害虫などの防除に利用できる可能性がある。</p>
調査研究課題名	北港処分地における衛生動物のモニタリング調査
および概要	<p>大阪市北港処分地南地区において、ドブネズミ、ハエ類、ユスリカ類の個体数をモニタリングし、防除方法を提案している。</p>
実施機関名	鳥取県衛生環境研究所
調査研究課題名	東郷池の環境改善に向けた水生植物の再生に関する研究
および概要	<p>これまでの研究で、現在の東郷池では過去と比べて水生植物の多様性が減少したことが明らかとなった。当所では国立環境研究所との共同研究としてシードバンクを活用した水生植物の再生手法を検討し、東郷池で絶滅したと思われていたセキショウモの再生に成功した。</p> <p>本研究では、シードバンクで再生したセキショウモを湖内等へ定着させることで、東郷池での水生植物の再生手法及び保全技術を確立し、環境保全及び自然再生を目指す。</p> <p>[URL] http://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm</p>

(続き)鳥取県衛生環境研究所

調査研究課題名	湖山池の汚濁機構解明と希少種保全のための研究
および概要	<p>湖山池の再汽水化から3年半が経過したが、水質は未だ安定しておらず、環境基準は未達成のままであり、その原因の解明には至っていない。</p> <p>また、県の特定希少野生動植物であるカラスガイの保全を進める上で、保全に必要な定着技術が確立されていない。</p> <p>本研究では、湖山池の水質モニタリング等を行い、水質汚濁の要因分析を行うとともに希少種(カラスガイ等)の保全に向けた自然再生方法の検討を行い、今後の湖山池の望ましい姿を目指した施策に繋げる。</p> <p>[URL] http://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm</p>
実施機関名	島根県保健環境科学研究所
調査研究課題名	宍道湖で優占する植物プランクトンの競合試験について
および概要	<p>県東部に位置する汽水湖である宍道湖に発生する植物プランクトンは主に珪藻、藍藻、緑藻が優占種として観察されている。本研究ではこれらプランクトンのうち、珪藻と藍藻を同一系内で培養し、塩分濃度や水温を変化させた時、どの種が優先的に増殖するのかを試験している。この結果により塩分、水温を基にどのプランクトンが優占しやすいかを推測する一助となる可能性がある。</p>
実施機関名	岡山県環境保健センター
調査研究課題名	児島湖のユスリカ幼虫調査
および概要	<p>児島湖の周辺地域では、ユスリカの大量発生が問題となっている。特に、平成18年以降は大量に発生したユスリカが外壁・洗濯物、商店の商品等に付着し、不快害虫として問題となったことから、対策として集落地区に近い場所に誘蛾灯が設置された。また、近年苦情等被害は減少してきているが、住宅地に近接する湖南部はユスリカ幼虫個体数が多く確認されていることから、年4回、湖南部を含む湖内3地点で継続調査を行い、対策検討の一助としている。</p> <p>[URL] http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/466230_3271403_misc.pdf</p> <p>http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/462947_3229105_misc.pdf</p>
実施機関名	山口県環境保健センター
調査研究課題名	榎野川河口干潟(南潟)における順応的取組推進に向けた調査研究
および概要	<p>昨年改正された瀬戸内海環境保全特別措置法において、沿岸域の保全・再生が明記され、干潟の持つ多面的機能の重要性が再認識されている。榎野川河口干潟(南潟)では流域住民がアサリ漁場の再生などを目標にした流域づくりを行っており、里海づくりについては、人力による干潟耕耘や被覆網の設置などに取り組むことで一定の成果を収めている。一方で耕耘の効果には不明な点が多いことや、被覆網の管理負担が大きいこと等の課題もある。本研究では耕耘が底質や水質に与える影響の評価や、フィールドの実態に合わせた効果的な被覆網の設置法に関し、科学的な知見を得ることを目的に実施する。</p>

(続き) 山口県環境保健センター

<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>瀬戸内海西部海域における栄養塩類濃度の変遷について</p> <p>近年、瀬戸内海の貧栄養化による水産資源の量および質の低下が指摘されている。一方で、瀬戸内海に陸域から供給される栄養塩類量がどのような変遷をたどってきたかは不明な点が多く、特に西部海域について顕著である。そこで、地方自治体が実施している公共用水域の常時監視データを中心に、栄養塩類の実測値変遷を明らかにし、漁獲量等の生物量データと比較解析することにより、きれいで豊かな瀬戸内海を創出するための基礎資料とする。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>香川県環境保健研究センター</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>ニッポンバラタナゴ <i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i> の遺伝子解析 ーニッポンバラタナゴ香川個体の遺伝子モニタリングー</p> <p>ニッポンバラタナゴはコイ科タナゴ亜科に属する日本固有の小型淡水魚で、環境省のレッドデータブックにおいても絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。香川県の東讃地域はニッポンバラタナゴの貴重な生息地である。</p> <p>ニッポンバラタナゴの保護には、交雑の恐れのあるタイリクバラタナゴとの正確な判別が不可欠であるが、両亜種は形態に差異が少なく、外見では判別が困難である。そのため、ミトコンドリア DNA の PCR-RFLP 分析による遺伝子モニタリングを行っている。</p> <p>[URL] http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/e_center/syohou/2015.htm</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>生物応答を利用した化学物質評価に資する研究</p> <p>モデル生物である自活性線虫を用いた化学物質の毒性や食品の機能性・有用性の評価法が注目されているが、これをさらに発展させるため、メタボロミクスの技術を応用した新規評価システムの構築を目指す。</p> <p>[URL] http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/e_center/theme/2002/theme16.htm</p>
<p>実施機関名</p>	<p>愛媛県立衛生環境研究所</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>特定希少野生動植物(コガタノゲンゴロウ)の生物多様性保全に関する調査・研究</p> <p>コガタノゲンゴロウの主要な生息域と考えられるため池とその周辺水田で、本種の生息状況と生息環境について調査し、本種の減少要因の解析する。そして、本種の保全対策手法を明らかにする。 [URL] http://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity/</p>
<p>実施機関名</p>	<p>高知県環境研究センター</p>
<p>調査研究課題名 および概要</p>	<p>四万十川における清流基準調査</p> <p>平成13年に制定された「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」(略称: 四万十川条例)にて定められた清流基準に基づいて調査を行っている。この清流基準調査は環境基本法に定められた環境基準に加えて、新たに清流度、水生生物及び窒素・りん項目を設定したものである。微妙な水質の変化を分かりやすく人の感覚に対応したものである。 [URL] http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/ http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030802/kochikenkanyoukenkyuusenta-syoho.html</p>

実施機関名	福岡県保健環境研究所
調査研究課題名 および概要	<p>福岡県における侵略的外来種の定着状況把握とその影響評価</p> <p>福岡県の地域性をふまえ、特定外来生物の指定種に加えて法的には規制されていない侵略的外来種を含めたリスト(外来種ブラックリスト: 仮称)を作成する。また、抽出された外来種が生態系等に与える影響を評価し、カテゴリー区分することにより、優先的に対策が必要な種を整理し、多様な主体による計画的な防除等の外来種対策に資する。</p>
調査研究課題名 および概要	<p>福岡県生物多様性戦略推進のための生物多様性指標の開発</p> <p>福岡県生物多様性戦略(平成 25 年 3 月策定)において、都市や河川、ため池、水田、森林などの生物多様性の状況がかわる指標を開発し、市町村や NPO 等が行う生物多様性評価や取組の進捗状況の把握等を支援し、保全の取組を促進することが記されている。そこで、本研究では、基礎的データ収集に基づいて、生物多様性評価を行うための新たな生物指標を開発する。</p>
調査研究課題名 および概要	<p>植物の環境ストレス診断法の確立と高度化に関する研究</p> <p>植物を用いた環境影響評価によって環境情報の充実と大気環境の保全に取り組むため、分子メカニズムに基づく野外におけるストレス診断方法を実地検証して確立し、その高度化を図る。国環研 II 型共同研究として実施する。</p>
調査研究課題名 および概要	<p>英彦山ブナ林生態系の保全・復元に関する研究</p> <p>英彦山ブナ林は、台風被害等によりブナの衰弱・枯死が進み、さらに近年では、シカの生息密度増加に伴う低木の食害や林床植生の劣化が生じている。そこで、シカ食害を防ぐための防護柵に対する生態系の応答とそのメカニズムを明らかにする。また、この知見を英彦山のブナ林に広域的に展開し、具体的な生態系の保全・復元計画を提案することで、効果的な生物多様性保全策への貢献を目指す。</p>
調査研究課題名 および概要	<p>森林生態系における生物・環境モニタリング手法の確立</p> <p>日本各地における衰退が懸念される森林生態系の評価と保全対策に資するための生物・環境モニタリング手法を確立し、標準調査マニュアルを作成する。国環研 II 型共同研究として実施する。</p>
実施機関名	長崎県環境保健研究センター
調査研究課題名 および概要	<p>再生砂による浅場づくり実証試験事業</p> <p>本事業は陶器くずや廃ガラスを原料とした再生砂を用いて、人工的に浅場を造成し二枚貝の生息数を拡大することで、大村湾内での浅場の有効性を実証するものである。</p> <p>1 ヘクタールの浅場を造成する大村湾内の沿岸海域における造成前と造成後の底生生物や底質などのモニタリング調査を行う。</p> <p>[URL] https://www.pref.nagasaki.jp/singi/dlpdf.php?flg=1&filename=30796.pdf</p>
調査研究課題名 および概要	<p>内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究</p> <p>水質浄化能力に優れた淡水性二枚貝であるイケチョウガイを諫早湾干拓調整池内での大量飼育につなげていくために、実際にイケチョウガイを調整池において地蒔き飼育し、その生育状況等について調査を行い、地蒔き飼育の可能性について検証する。</p> <p>[URL] http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2016/11/1479278096.pdf</p>

(続き)長崎県環境保健研究センター

調査研究課題名	ツシマヤマネコ保護増殖事業(環境省委託事業)にかかる糞等のDNA分析
および概要	ツシマヤマネコ保護増殖事業の一環として、生息状況モニタリング(痕跡調査)において採取された糞サンプル等について、DNA分析により種判別、性判別及び個体識別を行う。
実施機関名	熊本県保健環境科学研究所
調査研究課題名	WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ
および概要	本研究ではバイオアッセイを用いた代表的な水質管理手法であるWETシステムにより、水環境汚染の現状と特徴の把握を試みるものである。研究に参加する地方環境研究所は調査地点において、基本的な水質測定と水のサンプリングを行い、WET手法を用いた生態影響試験を実施できる国立環境研究所や他の研究機関へ試料を送付する。生物に対して何らかの影響が確認された場合には、その原因物質を特定するとともに、排出削減方法などを提案し、地域の水環境の向上に貢献する。
実施機関名	宮崎県衛生環境研究所
調査研究課題名	県内主要河川における水生生物に関する調査研究～水辺環境学習の充実化に向けて～
および概要	宮崎県内の小中学校等で行われる「水辺の学習」は、本県が平成17年度に策定した「だれにでもできる五感を使った楽しい水辺の調査 指導者用マニュアル」に沿って実施されている。しかし指標に挙げられている水生生物は本州を中心としたものであり、本県にはそぐわない部分があるため、本県の水辺環境に即したわかりやすい資料を作成するために、県内を流れる幹川だけでなく、その支川を含めた水系として県内河川の水生生物調査を行う。
実施機関名	沖縄県衛生環境研究所
調査研究課題名	外来ハブ類の防除に関する研究
および概要	沖縄本島内に定着し、急速に高密度化し分布域を拡大している特定外来種であるタイワンハブを駆除する方法を確立する研究。モデルの実験区において、ベイトトラップによる捕獲圧等による駆除効果を検証する。最終的には一定地域内根絶を目標とする。その後、駆除方法をマニュアル化し、関連市町村へ技術移転することで、タイワンハブの生息密度や分布拡大を阻止することを目的としている。
実施機関名	北九州市環境科学研究所
調査研究課題名	干潟・浅場や藻場が里海里湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係(Ⅱ型研究)
および概要	本市洞海湾における付着動物の生息状況と生息環境との関係を検討する。 平成3-4年及び平成22-24年に実施した坪刈りによる付着動物調査により、優占種であった二枚貝(主に外来種)が減少し、湾全域で付着動物の均衡性が高まっていることが分かった。本調査では、二枚貝が減少した原因を解明することを目的とし、坪刈り調査データと25-27年度実施の目視調査データを用いて水質や生息環境の変化と付着動物生息状況との関連性をさらに検討する。

実施機関名	福岡市保健環境研究所
調査研究課題名	福岡市内河川の底生動物を用いた環境評価
および概要	<p>福岡市内河川の水環境について、水質検査だけでは把握できない環境影響や長期的影響を把握することを目的として、河川底生動物を指標とした環境評価を5河川(多々良川, 那珂川, 御笠川, 樋井川, 室見川)で順に実施している。2015年度は御笠川の淡水域について底生動物の調査を実施し、ASPT値, 簡易水質判定法を用いて環境評価を行った。</p> <p>[URL] 所報のページに過去の調査結果を掲載している</p> <p>http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/kenkyu/shoholist.html</p>